

大学入学共通テスト 英語民間検定導入延期！

共通 ID 発行開始日に急転！ ID 発行停止！！

受験生をはじめとした高校生、保護者の皆様へ

文部科学大臣の萩生田光一です。皆様に、令和2年度の大学入試における英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の導入を見送ることをお伝えします。

大学入試における英語民間試験に向けて、今日まで熱心に勉強に取り組んでいる高校生も多いと思います。今回の決定でそうした皆様との約束を果たせなくなってしまったことを、大変申し訳なく思います。

英語民間試験を予定通り実施するかどうかに関しては、高校生をはじめ多くの皆様から、賛成・反対、様々な意見をいただきました。

私としては、目標の大学に向けて英語試験の勉強を重ねている高校生の姿を思い浮かべながら、当初の予定通りのスケジュールで試験を実施するために、連日取り組んできました。

しかし、大変残念ですが、英語教育充実のために導入を予定してきた英語民間試験を、経済的な状況や居住している地域にかかわらず、等しく安心して受けられるようにするためには、更なる時間が必要だと判断するに至りました。

大学入試における新たな英語試験については、新学習指導要領が適用される令和6年度に実施する試験から導入することとし、今後一年を目途に検討し、結論を出すこととします。

皆様が安心して、受験に臨むことができる仕組みを構築していくことをお約束します。

今回、文部科学省としてシステムの導入見送りを決めましたが、高校生にとって、読む・聞く・話す・書くといった英語4技能をバランスよく身に付け、伸ばすことが大切なことには変わりありません。

グローバル化が進展する中で、英語によるコミュニケーション能力を身に付けることは大変重要なことです。皆様には、これからも日々の授業を大切にするとともに、それぞれの目標に向かって努力を積み重ねて頂きたいと思います。

令和元年11月1日

文部科学大臣 萩生田光一

これまで、様々な方面から導入反対の声が上がっていた、2020年度から実施とされていた「大学共通テスト」における、英語の民間検定試験導入について、11月1日、萩生田文部科学大臣は、導入延期を発表しました。この制度については、全教をはじめ、全国校長協会や実際に試験を受ける高校生たちも、導入延期の声をあげていましたが、文部科学省は、導入を強行しようとしていました。しかし、萩生田大臣自らの「身の丈発言」を受けて、大きく事態が動き、ようやく多くの方々に、この制度のおかしさが伝わり、「導入を見直せ」「導入延期を」の声が広がり、文部科学省を動かすことになったのです。小さいことかもしれませんが、政府の政策で、一度決まったものを覆すことは大きなことです。多くの受験生が安心して受けることができる制度の確立を願います（ただし、2020年度入試での、国数の記述式テストは実施の方向です）。